

4 五十人山の動物

るハクビシンが目撃されることもある。

小型の哺乳類では、林の中で木から木へ軽快に跳び移るリスをみることができる。林が切れたところでは、地面に降りてチョコチョコ走りまわることもある。

夕暮れの空をすかしてみると、小さな黒い影が忙しく飛び回っていることに気が付く。俊敏ではあるがツバメのような流麗さはなく、どことなくぎこちない飛び方である。この影のぬしは空を飛ぶ唯一の哺乳類のコウモリである。空を飛びながら、超音波を使って主に蛾とか蚊などの小さな昆虫類を捜して

いるところである。温帯地方に生息する虫を食べているコウモリは、餌のなくなる冬の間は、建物の隙間や樹木の割れ目や洞穴などで冬眠することになる。民家周辺を飛び回っているのはアブラコウモリで、別名をイエコウモリともいう。林の中の開けたところを飛翔しているのは、コキクガシラコウモリのようなものである。超音波を受ける耳介が5cm程に長く伸びた、ウサギコウモリもいるにちがいない。

ネズミやモグラは、コウモリとは反対に、地中に潜った哺乳類である。五十人山には、体と尾がともに10cmぐらいの小さなヒメネズミがいる。餌は、草



モリアオガエルの卵塊



アリジゴク